

大規模災害時の「公助の限界」

災害の規模が大きくなると、迅速な支援は難しくなります。行政自身が被災、機能麻痺する場合があります。

また、効果的な公助の展開には発災後1週間程度はかかると考えておく必要があります。

防災対策の三要素「自助・共助・公助」を今一度考えてみましょう。

No.1

じ じょ

自助

自分（家族）の命は自分（家族）で守る。

この考えのもと、日ごろ災害に対して備えたり、発災時には負傷せずに生き残る事が防災対策の基本となります。

No.2

きょう じょ

共助

自分たち（地域・組織・グループ）は自分たち（地域・組織・グループ）で守る。

自分が負傷せずに生き残れたら、地域・組織・グループの人たちと助け合う事。

No.3

こう じょ

公助

国、自治体、消防、警察、自衛隊などによる公的な援助・災害支援や復旧活動の事。

ただし、「公助」は地域福祉においてはあくまでも補完的な役割であり、**まずは「自助」、そして最も大切な「共助」、それでも解決できない場合の「公助」**となります。

* 皆様へ分散避難協力をお願い *

新型コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症が発症した時、3密を避けなければなりません。拠点避難施設の収容人数には限界があります。堅固な建物や自治会館、近所の知人や親類の家などへの避難について事前に話し合っておきましょう。

- ・ 防災拠点は、**震度5強以上の地震が発生した際、開所します。**
- ・ 家が崩壊又は半壊で、**生活できなくなった方が対象です。**
- ・ 発災時は**お車での来所は出来ません。**